Panasonic® 小電力型 ワイヤレス接点入力送信器

（火災・ガス対応型）（自動通報システム用） 品番 ECD2411

取扱説明書

施工説明付き

ECD2411

●このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
●この取扱説明書は大切に保管してください。
●施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書をお渡しください。
●万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

付属品	
	●取付用丸木ネジ（3.1×13）……2本
	●フェライトコア ……2コ
	●リチウム電池（CR2）……1コ
	●取扱説明書（本紙）……1枚

安全上のご注意 ■必ずお守りください

⚠注意

必ず守る

リチウム電池は極性に注意して表示通りに入れる。
極性を間違えると、リチウム電池の破裂や液もれの原因となります。

ご使用前に

●この商品は、受信器および火災・ガスもれ警報器と組み合わせて使用し、警報器が火災やガスを検知したことを送信器から受信器に知らせる商品です。なお、この商品は電波法で認められた「小電力セキュリティシステムの無線局」です。

●本システムは人命保持やガスもれ・火災事故を完全に防ぐものではありません。あくまでも補助的なシステムです。
万一、本システムの稼動中に人命・ 財産などに対して損害が生じても弊社は一切の責任は負い兼ねますのでご了承ください。

おことわり

●送信器は、総務省の技術基準に適合しています。商品に貼り付けられている表示（㊣マーク）は、その証明マークです。表示マークの貼り付けられている商品は総務大臣の許可無しに改造して使用することはできません。

改造すると法律により罰せられることがあります。

組み合わせ可能な商品について

【取り付け可能な警報器】

●警報器側の説明については警報器に付属の説明書を参照してください。
●送信器1台に対して、警報器は1台のみ接続できます。
●他社製の警報器には接続できません。
㊟ **セキュリティ受信器（ECD1101・ECD5101）と組み合わせて使用する場合は、ガスもれ警報器は接続できません。**

（2008年11月現在）

品　名		品　番
住宅用火災警報器	けむり当番2種（電池式・移報接点付）（警報音・音声警報機能付）	SH28453K
	けむり当番2種露出型（AC100V端子式・移報接点付）（警報音・音声警報機能付）	SH28413
	ねつ当番定温式（電池式・移報接点付）（警報音・音声警報機能付）	SH28153K
	ねつ当番定温式露出型（AC100V端子式・移報接点付）（警報音・音声警報機能付）	SH28113
	けむり当番・ねつ当番（警報音・音声警報機能付）連動型用移報接点アダプタ	SH2890
ガスもれ警報器	ガス当番都市ガス（天然ガス）用ヘッド（AC100V引掛式・移報接点付） ガス当番丸型ベース（4端子式）	SH13928 SH5900
	ガス当番都市ガス用ヘッド（AC100V引掛式・移報接点付） ガス当番丸型ベース（4端子式）	SH13828 SH5900
	ガス当番LPガス用（AC100Vコード式・移報接点付）	SH137K

【組み合わせ可能な受信器・中継器】

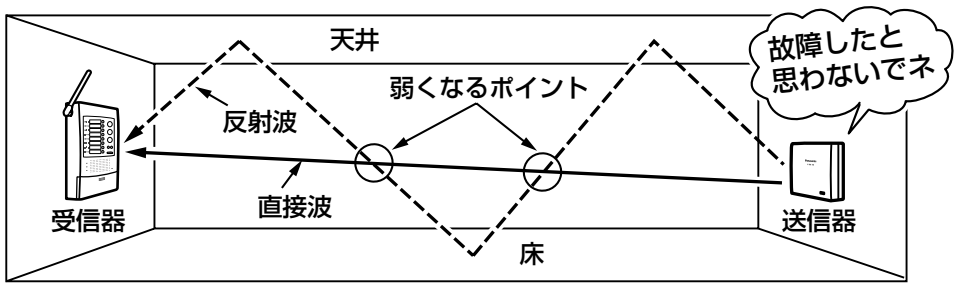
●ご使用の際にはその商品に付属の説明書を参照してください。

（2008年7月現在）

品　名	品　番
小電力型ワイヤレスセキュリティ受信器	ECD6101K・ECD6130K・ECD1101・ECD5101
小電力型ワイヤレス中継器	ECD3100

設置場所に関するご注意

●送信器は屋内で使用してください。また雨のかかる場所や浴室など湿度の高い場所では使用できません。
●受信器と送信器の電波の到達距離は、障害物のない場所での水平見通し距離約100mです。（電波が届きにくい場合は、中継器（別売）をご使用になり、動作を確認してください。）
●下記のような使用環境では、電波（ノイズ）を受けたり電波の到達距離が短くなります。このような場合は動作しないことがありますので注意してください。
　●機器間に金属や鉄筋コンクリートなどの電波を通しにくい障壁がある。
　●機器間にある壁面内の断熱材にアルミ箔を貼り付けたグラスウールを使用している。
　●機器の周辺が金属物で囲まれている。（スチールキャビネットの間、カラオケボックスなど）
　●金属物の壁面に機器を取り付けている。
　●操作する人の体の向きで電波を遮っている。
　●電子レンジやパソコンなどの家電商品やOA機器が機器の2m以内にある。
　●機器の近くで、直流電圧で駆動するベルやモーターなどの機器が動作している。
　●機器の近くで、携帯電話やPHS電話を使用している。
　●機器の近く（10m以内）で、マイクロ波治療器を使用している。
　●近くに、テレビ・ラジオの送信所近辺の強電界地域または各種無線局がある。
●到達範囲内でも電波が弱くなるポイントがありますので注意してください。



●受信器と送信器は50cm以上離して使用してください。
●設置場所ではあらかじめ動作確認を行ってください。設置後、使用環境（電波環境）が変わることがありますので、定期的に動作確認を行ってください。

使用上のご注意

●2台以上の送信器から同時に電波が送信されると、受信器は動作しないことがありますが、故障ではありません。
●送信電波が医用電気機器に与える影響はきわめて少ないものですが、安全管理のため送信器は医用電気機器から20cm以上離して使用してください。
●送信器は約7時間ごとに自動的に電波を送信しています。
電池切れが近くなると受信器に電池切れ信号を送信します。
●受信器・送信器の取付場所を変更する場合、あらかじめ動作確認を行ってください。

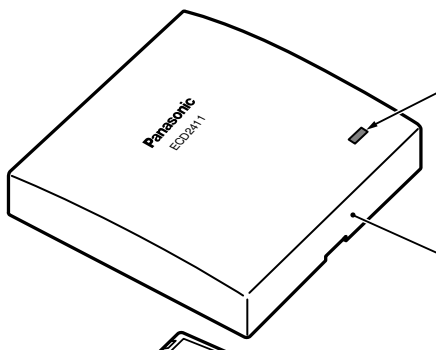
お手入れ方法

●**ふだんのおそうじは…**
やわらかい布でふき取ってください。

㊟ **ベンジンなどは引火性があるため、使用しないでください。**

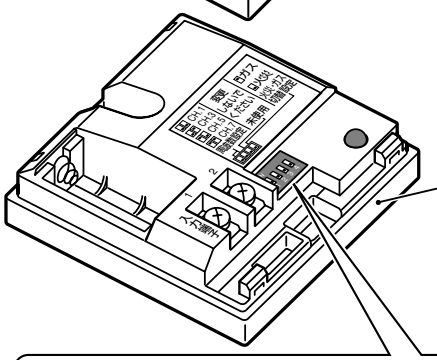
●**汚れが目立つときは**
中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。噴霧式の洗剤は使わないでください。

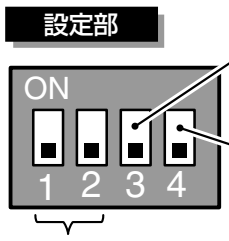
各部のなまえとはたらき



送信灯
●電波を送信したときに赤色点灯します。このとき、電池切れが近いと、赤色点滅します。

カバー
（はずし方は裏面の「2 電池の入れ方」を参照）





使用しません。

火災・ガス切替設定スイッチ
●接続する警報器を設定します。
（出荷時：「下（火災警報器）」側）

周波数設定スイッチ
●周波数を設定するときに使用します。（出荷時：「CH.1」）

■仕 様

屋内用

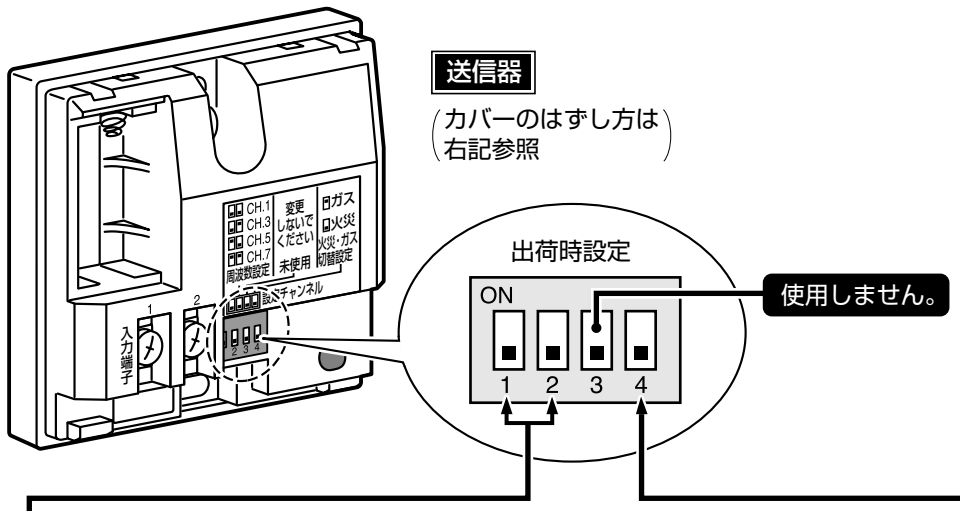
電　源	リチウム電池（CR2）×1コ
動作電圧範囲	2.2V～3.5V
消費電流	動作時：50mA以下 待機時：30μA以下
使用周波数	CH.1（426.7625）MHz CH.3（426.7875）MHz CH.5（426.8125）MHz CH.7（426.8375）MHz の1波　※周波数設定スイッチで選択
電波の到達距離	障害物のない場所での水平見通し距離約100m （周囲環境により異なります。）
送信出力	10mW $^{+20\%}_{-50\%}$
入力仕様	無電圧接点入力　「閉」状態：100Ω以下（抵抗負荷） 「開」状態：90kΩ以上（抵抗負荷） 当社警報器は1台のみ接続可能／他社製の警報器は接続不可
電池寿命	約2年（月1回10秒間動作にて）
使用温度範囲	0℃～+40℃
寸　法	高さ：約70mm　幅：約70mm　奥行：約24mm
質　量	約70g（電池も含みます。）

お使いになる前に

使用する前に **1** 周波数チャンネルの確認および設定スイッチの設定、**2** 電池を入れる、**3** 受信器に送信器の登録が必要です。

注 登録は受信器に付属の説明書にしたがって行ってください。登録しないと使用できません。
登録後は、実際の使用場所で受信器と送信器の電波到達確認を行い、正常に動作することを確認してから取り付けてください。

1 周波数チャンネルの確認および設定スイッチについて



❶ 周波数チャンネルの確認

●受信器と送信器の周波数チャンネルが同じであることを確認してください。
違う周波数チャンネルでは動作しません。（出荷時はCH.1に設定されています。）

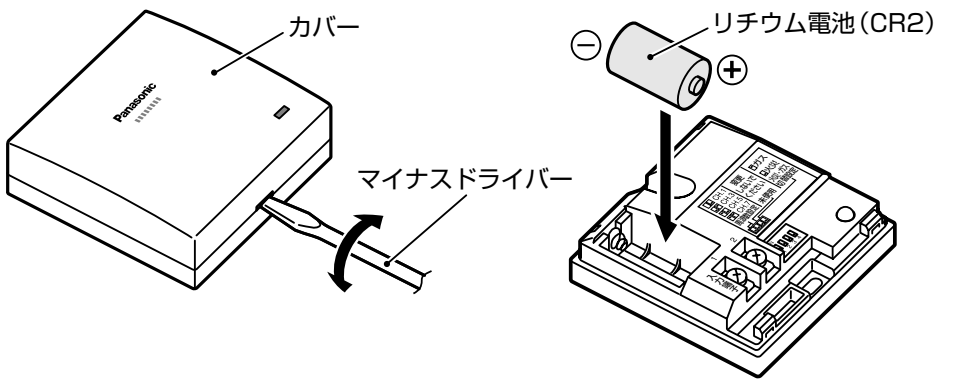
CH.1 (1 2) CH.3 (1 2) CH.5 (1 2) CH.7 (1 2)

❷ 火災・ガスの切替設定

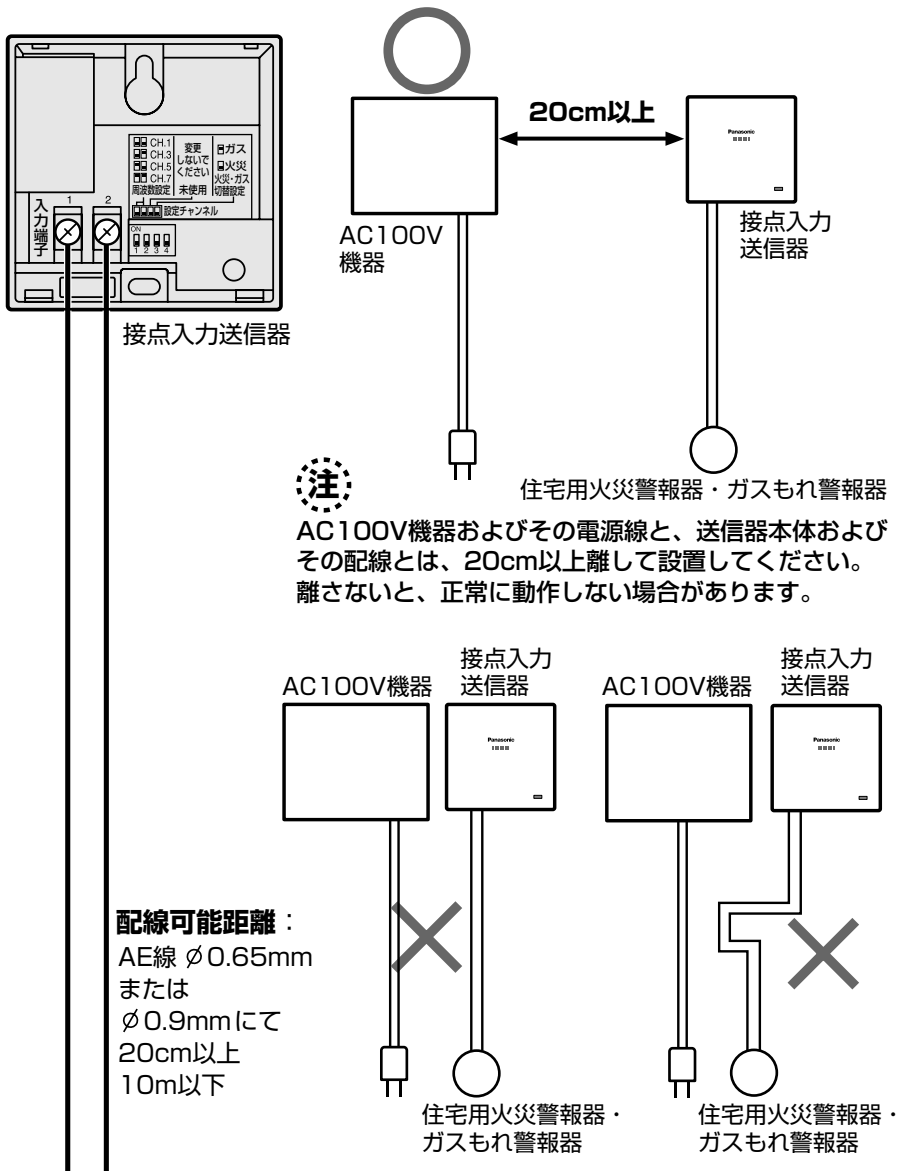
●接続する警報器に合わせて設定してください。
火災とガスが反対になっていると正常に動作しません。
（出荷時は「下（火災警報器）」側に設定されています。）

住宅用火災警報器を接続する場合 (4)　ガスもれ警報器を接続する場合 (4)

2 電池の入れ方



配 線 方 法



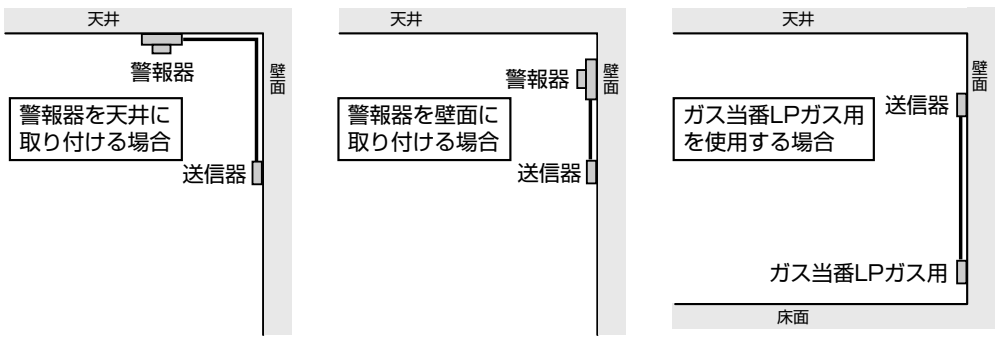
注 AC100V機器およびその電源線と、送信器本体およびその配線とは、20cm以上離して設置してください。
離さないと、正常に動作しない場合があります。

住宅用火災警報器・ガスもれ警報器

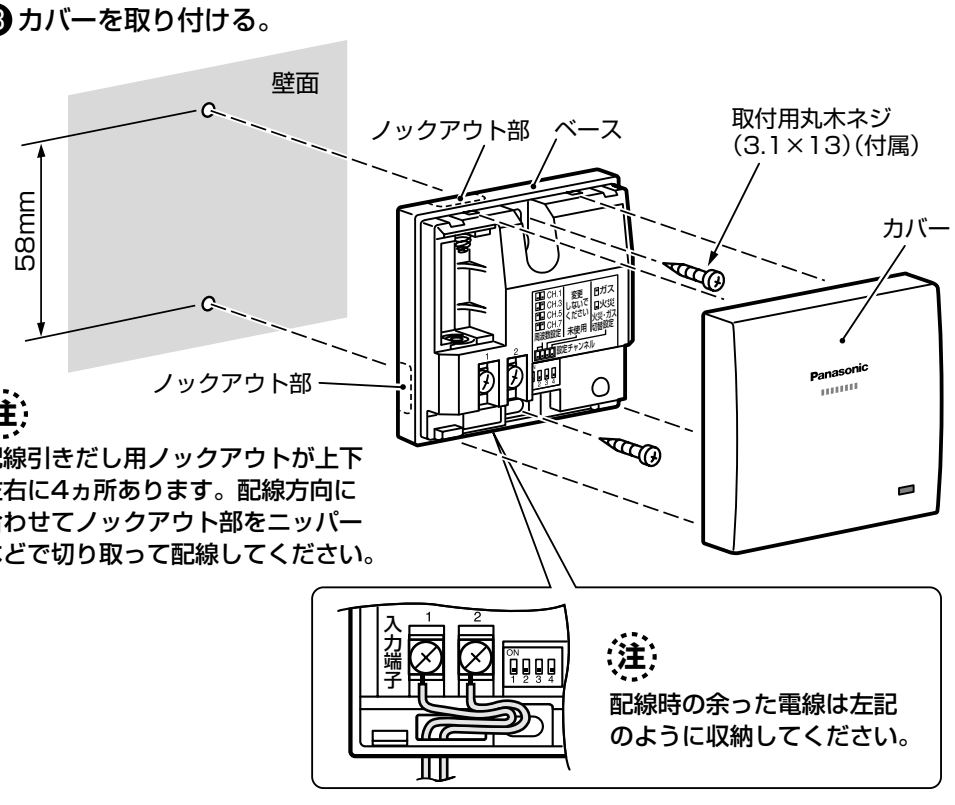
注 警報器側に極性がある場合は
入力端子1を＋側、入力端子2を一側 に
接続してください。

取 付 方 法

●送信器は壁面に取り付けてください。天井には取り付けできません。
●住宅用火災警報器、ガスもれ警報器の取付方法は各商品の説明書を参照してください。



❶カバーをはずす。
（上記の「**2** 電池の入れ方」を参照）
❷取付用丸木ネジ（3.1×13）（付属） 2本でベースを壁面に取り付ける。
❸カバーを取り付ける。



注 配線引きだし用ノックアウトが上下左右に4ヵ所あります。配線方向に合わせてノックアウト部をニッパーなどで切り取って配線してください。

注 配線時の余った電線は左記のように収納してください。

動作確認

●送信器に接続させた警報器を点検動作させて、受信器が正常に動作することを確認してください。
（点検動作の方法については警報器側の説明書を参照してください。）

パナソニック株式会社　システム機器ビジネスユニット
〒514-8555 三重県津市藤方1668番地 電話 0120-283338 FAX 0120-551626

© Panasonic Corporation 2012

8A2 E39 00004 K0604-30112A